



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.7-1/2

ノートの「とり方」について

ノートの評価基準（5段階）

- A ノートに工夫（内容がわかりやすいように、構造化されている等）が見られ、自分で調べたことなどが整理されている。
- B 工夫してノートをまとめているが、自分で調べたことが部分的にしか整理されていない。
- C 板書やプリントをまとめているが、自分で調べたことが整理されていない。
- D 内容的（板書やプリントなど）に欠落があるか、指示された学習をしていない。かつ、自分で調べたことが整理されていない。
- E 内容的（板書など）にかなりの欠落と、配布したプリントなどがはられていないなど、指示された学習がされていない。かつ、自分で調べたことが整理されていない。

方」・「書き方」を変えるだけでも、学習の能率は大きく違ってきますし、学習を楽しくできるようになります。

一度した学習を、次の学習する際に役立てるために「とる」のが、ノートの一つの大きな意味です。ところが、ほとんどの人のノートは、とりっぱなし、二度と見ないノートにしかありません。一度がんばったことが、次に役立つようになければ、その努力はもったいないものです。

ノートをつくる際の基本的な事項

- ① 学習した内容が、一目でわかるようなノート。
- ② 芸術品をつくる必要はない。自分が後で見て、読む気になるノートであれば良い。したがって、できる限りスピードを上げてノートをとること。
- ③ 自分で、テスト勉強するためなどに利用するときに、問題集の代わりをすることができるようなノートが、効率的である。

そこで、社会科通信でもう一度、主なことだけを具体的に説明しておきます。

授業の中で、ノートの「とり方」・「書き方」について、説明してきました。しかし、まだ、ノートの「とり方」が、受動的な「とり方」しかできていない人がほとんどです。

ノートの「とり方」

- ① 見開き1ページ（ふつうなら2ページになるところを1ページ分として利用する）で使い、1つの小単元しか書かないノートにすること。これは、実際には（通常）授業1時間分に当たります。
- ② 行をつめて書くのではなく、1つの文章ごとに、1行づつあけること。こうすることによって、非常に見やすいノートになります。
- ③ 専門用語で重要な語句には、色をつけるなどの工夫をすること。
- ④ 「板書」（先生が黒板に書いたこと）を写すところと、自分で調べたり、自分が考えたことを書くスペース（位置）などを、きっちりと区別しておくこと。たとえば、左の方には「板書」、右上は、自分で調べたこと、右下は自分が感じたこと、考えたこと。というように。
- ⑤ 特に、「板書」では、専門用語しか先生は書かないことが多い。そこで、右に、その専門用語の意味を調べて、ノートにしておく。こうすれば、テスト前には、ノートが完全に「練習問題集」を兼ねることができるよう（右だけを見て、専門用語の関係や事項の因果関係を考えたり、左だけをみて、専門用語の意味が言えるかどうかを練習できるからです）。
- ⑥ プリントをはる位置は、何も書いていないページ（スペース）であること。プリントをめぐらなければ、ノートの内容が見えないようでは、見開き1ページにしている意味が全くありません。自分が読みたい本のの上に、プリントをはりつける人はいないでしょう。それと同じなのです。

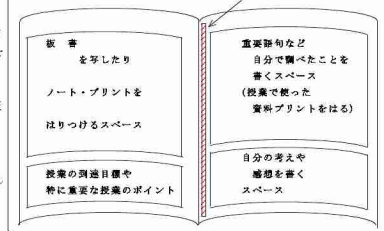
※※ ノートにプリントをはりつける場合は、たてにノリをつけてノートのページをめくりやすくすること。 ※※

- ⑦ プリントを重ねて、はらないこと。上のプリントをめくらないと、次のプリントを見ることができないようでは、下のプリントを見ることは、ほとんどなくなりま

す。ルーズ・リーフでは、袋にプリントを重ねて入れないこと。

ノートの記入（とり方）のサンプル

ノリづけの位置（ノリをたてに使うのがコツ）





尼崎市立小園中学校 第1学年

社会科通信

なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.7-2/2

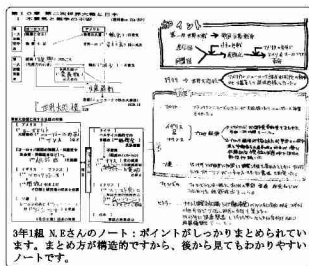
先輩のノートに学ぶ

中間考査の後で、初めてノートの点検を行いました。

君たちのノートは、まだまだ自主的に学習したと言えないようなものでした。

しかし、3年生のノートは、さすが3年生と思わせるようなノートが大半でした(先生(倉橋)が行っているのは1組だけです)。その中でも、「A」の評価がついている人が何人かいます。

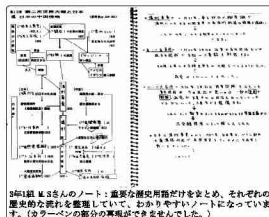
ここに紹介しているのは、そのうちでも「秀作」と評価できるノート群です。



3年1組 Rさんのノート：ポイントがしっかりとまとめられています。まとめ方が構造的ですから、後から見てわかりやすいノートです。



3年1組 Rさんのノート：カラーのマーカーペンの色を上手に利用して、事件の流れをつかみやすくしています。(コピー機の解像力の関係でプリントには再現できませんでした。)



3年1組 Rさんのノート：重要な歴史用語だけでなく、それぞれの歴史的な背景を整理していて、わかりやすいノートになっています。(カラーペンの部分の再現ができませんでした。)

自分のノートと比べてみてください。もちろん、人それぞれ個性がありますから、ノートに違いがあつて「当然」ですが、「見やすか、どうか」は、客観的に決まるでしょう。

ここに紹介したノートの個性は別にして、どのノートにも共通することがあります。

それは、学習内容のポイントをしぼりこんで、「要約」しているということです。

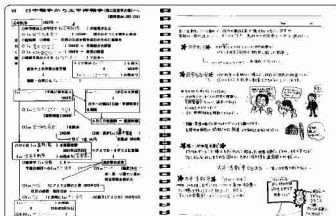
歴史的な事件の因果関係を中心にまとめ上げたノートのあれば、歴史用語を中心にまとめ事件の流れを「線(矢印)」でしめしているノートもあります。

いずれも、学習内容を一目で振り返ることが可能なくらいにコンパクトにまとめています。

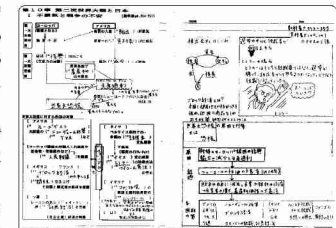
このように、コンパクトにまとめる練習をする間に、文章力もついてきますし、学習内容の整理ができます。

また、イラストをていねいに描き上げた「芸術作品」も多かったのですが、これは、ほどほどにしておいてください。

なお、「まとめる」のがしんどかったら、「用語集」の説明をそのまま写してもかまいません。けれども、定着率から言えば、まとめる頭脳を使用していない分だけ不利になります。



3年1組 Rさんのノート：用語の説明を中心にまとめています。大変わかりやすいノートです。行間を上手にいかしています。



3年1組 Rさんのノート：用語の説明だけではなく、授業中に聞いた話を整理してノートに取り入れています。



3年1組 Rさんのノート：歴史の流れをポイントだけでみごとにまとめています。イラストに時間をかけすぎないように。